

富山県武道館 基本設計概要(令和3年3月策定)



施設のコセプト



- 武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設
- 県民のスポーツ振興・健康増進に寄与する施設
- 魅力あるイベントによる地域活性化、防災力の向上に寄与する施設



主な特徴①



▶ 伝統と現代性を融合し、富山の景観と調和した外観

- 日本の伝統建築の要素（入母屋造など）を取り入れた武道の殿堂にふさわしい外観とします。
- 外装は落ち着いた色調のアルミを基調とし、内装には県産の木材や和紙などを使用。富山県の素材や伝統技術を活かします。

▶ 武道・スポーツの活気を魅せる開かれた構造

- 北陸新幹線の高架軌道と同じ高さに主道場の客席や展望ラウンジ、展望デッキを設け、新幹線利用者に対して富山県の賑わい、活動を発信します。
- 富山駅から続く南側幹線道路に面して、トレーニング室や軽運動室、研修室などを配置し、活動や賑わいを発信します。

主な特徴②



▶ 多目的利用を可能とする大型2層道場の武道館

- 1階に武道場、2階に軽運動室、3階に主道場、4階に客席、展望ラウンジを配置
- 柔道、剣道、なぎなた等の武道のみならず、バスケットボールやバレーボール、ボクシング、コンサート等のイベント、興行等にも対応可能です。

▶ 環境に配慮し、災害時に避難施設としての機能を維持できる武道館

- 災害によるインフラ途絶時にも避難施設として機能するように、非常用発電設備や防災備蓄倉庫を整備します。
- 屋上に太陽光発電設備を整備し再生可能エネルギーを活用するとともに、主道場では自然採光や自然通風を取り込む等、環境負荷を軽減します。

武道場

富山県

▶ 日常の稽古のほか、小・中規模の武道大会が開催可能



武道場

○最大活用例

柔道・剣道等 6面

なぎなた 4面

○最大収容人数

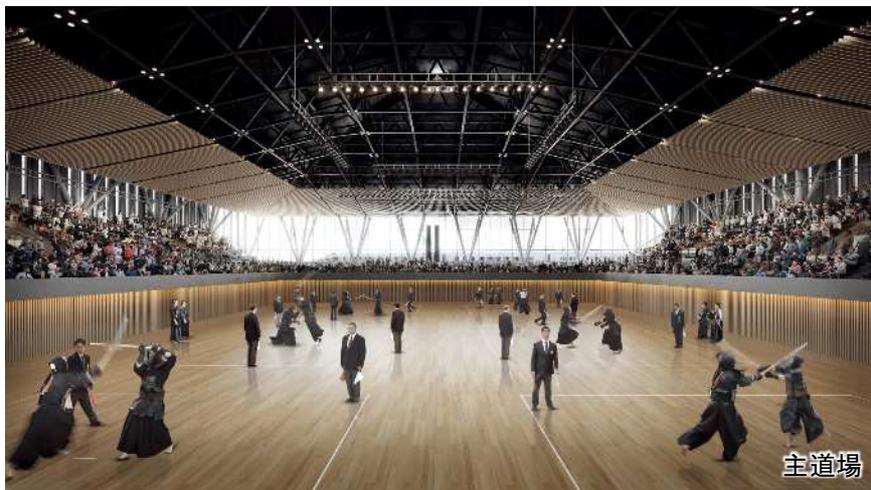
約400人

(固定席320席)

主道場

富山県

▶ 大規模の武道大会や、コンサート等のイベントが開催可能



主道場

○最大活用例

柔道・剣道等 6面

なぎなた 4面

バスケットボール・

バレーボール 2面

バドミントン 8面

卓球 10台

○最大収容人数

約4,000人

(固定席約2,200席)

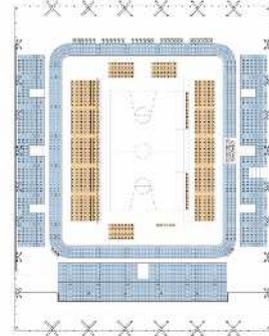
主道場 レイアウト例

武道大会



収容人数
約2,200人

バスケットボール



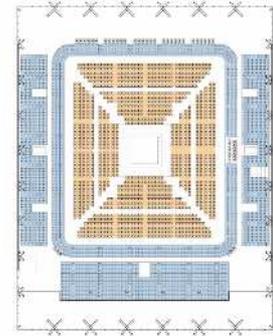
収容人数
約3,000人

コンサート



収容人数
約3,900人

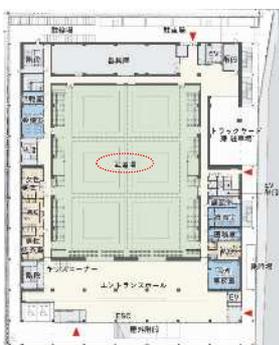
ボクシング



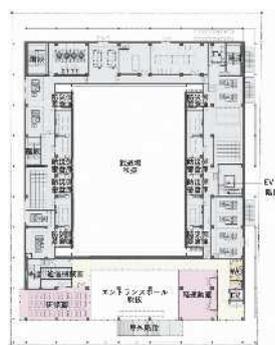
収容人数
約4,000人

フロア構成

- 1階「武道場」と3階「主道場」の大型道場が積層した構造
- 4階「展望ラウンジ」から立山連峰の眺望が楽しめる計画
(北陸新幹線の高架軌道と同じ高さのパノラマ空間)



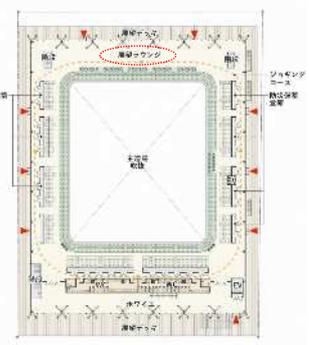
1階平面図



2階平面図



3階平面図

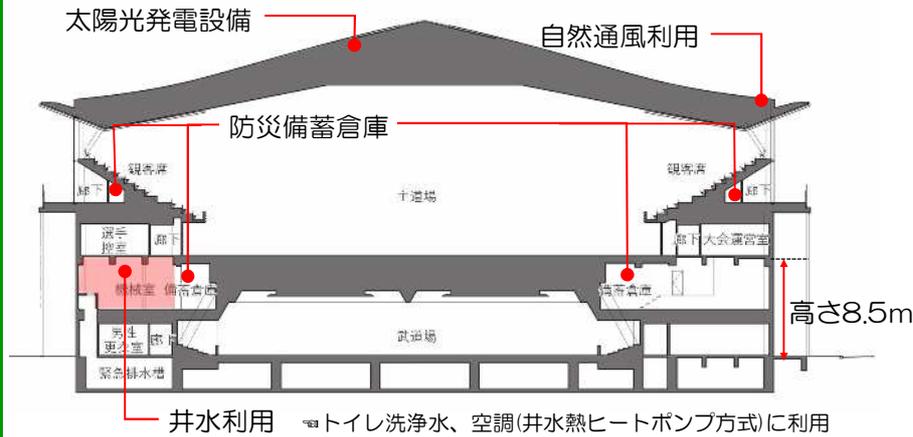


4階平面図

防災機能



- 3階の主道場や観客席は、**最大想定浸水時※でも、避難施設**として利用可能。 ※概ね1,000年確率で3.0~5.0m



- 重要機械設備は最大想定浸水時でも機能を維持可能
- 防災備蓄倉庫に避難者受入れに必要な物資を保管可能
- 災害時にも有効な省エネの自然エネルギー(太陽光・通風・井水)を活用

建物概要



敷地面積	5,950㎡
規模	地上4階（建物高さ28.8m）
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
延床面積	14,799㎡（屋外部除く）
建築面積	5,253㎡
駐車台数	敷地内：約20台、敷地外：約280台
建設工事費	87.4億円（消費税込み）
今後の予定	令和3年4月～ 民間活力導入可能性調査 ※基本計画では、令和5年夏頃の開館を目指していたが、上記調査実施のため、開館は数年程度遅れる見通し。

